

米奥小だより

令和6年12月6日(金)

No.32

米奥小学校 校長 北添 忠

〇町特支作品展

四万十町特別支援教育作品展が11月29日(金)に農村環境改善センターで行われました。これは、特別支援学級の児童生徒が制作した作品を展示したり、販売したりする活動です。この作品展に向けて、各学校では、展示作品や販売用の作品を作ったり、販売するための野菜やメダカなどを仕入れたりと、社会に出てからも役立つ活動をしてきました。また、当日は、多くの学校から児童が会場を訪れ、一般の方々といっしょに買い物を楽しんでいました。消費者教育という言葉がありますが、今回の活動は児童生徒にとって、生産者の立場に立って、何をいくらで販売するかやどんなものが売れるかなどを考え、消費者の立場に立って、何が欲しいか、持っている金額の中で何をかうかなどを楽しみながら学ぶ機会となっていました。米奥小学校の児童も全員が参加し、販売や買い物を楽しんでいました。



昨年度までは、学校で焼いて作ったクッキーの販売などもあったそうですが、調理した食品の販売には許可が必要であり、その基準が高くなったため、今年からなくなりました。



た。ちょっと残念な気もしますが、消費者を守るための仕組みなので、仕方がないですし、時代の流れを感じました。

○町教育委員会より危機管理に関する指導

12月4日（水）の校内研修において、四万十町教育委員会の山脇教育長および浜田次長より学校の危機管理についての指導がありました。学校は子どもたちの教育を行う場所であり、安全で、安心して過ごせる場所であればなりません。

教育長からは、情報共有体制の構築と強化、危機管理意識の向上、保護者や地域との連携強化、意識改革への取り組みについての話がありました。

この日の指導を受けて、これまで行ってきた不祥事防止の研修と合わせて、校内研修を行っていきます。

